

伊与喜小学校

極小規模校の良さと

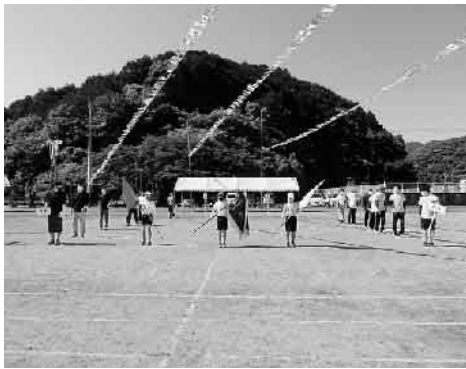
地域の特性を活かした
特色ある教育活動を

校長 川村 美香

◆はじめに

本年度は、全校児童数3名(5年生1名・6年生2名)、教職員数4名で教育活動をスタートしました。学級数は1学級複式で、家庭数も3家庭にまで減少しましたが、少人数の良さを活かして、これまで以上に地域と関わる学習および交流活動に重点をおき、工夫改善を図りながら、保護者・地域・学校が三位一体となった教育活動を進めています。

◆学校教育目標



『自ら学ぶ意欲と豊かな心
をみ、たくましく未来を切り
拓く児童の育成』



◆個々に確かな学力を<知>

複式の授業スタイルを基に、個に応じたきめ細かな指導を徹底し行っています。また、1人1台の情報機器を日常的に活用しながら、児童が学ぶ楽しさ、わかる喜びが実感できる授業づくりに努めるとともに、言語活動を積極的に取り入れ、少人数での表現し合う活動、学び合い、考えの深め合いができる授業となるよう授業改善も進めています。

授業以外にも、校時表への放課後学習の時間の位置づけ(基礎学力の定着に向けた取組)、家庭学習での予習学習への取組(授業の導入や展開での活用など)、家読書の習慣化への取組を継続し行っています。

◆豊かな心を<徳>

毎日笑顔で『明日も行きたい』と思える学校づくりをめざし、取組を進めています。

全ての授業の中で、一人ひとりの良い部分に目を向け、関わり合いともに認め合う場を積極的に設定していくとともに、肯定的評価を大切に扱うことで、自尊心を高める手立てとし取組を進めています。

居心地の良い、伸び伸びと成長できる学校であるよう、学校行事や体験活動などを活用しながら、仲間づくりにも積極的に取り組んでいます。

教科指導(道徳)では、考え議論する授業を仕組むことで、自分自身への気づきや本当の自分と向き合う時間、新たな自分自身への気づきにつなげるなど、自らの生き方を考える道徳となるよう、授業展開の工夫改善に努めるとともに、定期的にSC(※1)やSSW(※2)およびSHL(※3)を交えた校内支援会を実施することで、児童の変化に対する早期対応と、いじめや不登校の未然防止に向けた取組も積極的に進めています。



今年度も、体力および運動能力の向上に向けて、年間を通して業間運動の取組を進めるとともに、体を動かす楽しさや心地良さを味わいながら基本的な体の動きを身に付けることができよう、授業改善を進めています。また、生活調べによる基本的な生活習慣の見直しや啓発活動につながる取組を積極的かつ計画的に行いたいと思っています。

◆健やかな体を<体>

今年度も、体力および運動能力の向上に向けて、年間を通して業間運動の取組を進めるとともに、体を動かす楽しさや心地良さを味わいながら基本的な体の動きを身に付けることができよう、授業改善を進めています。また、生活調べによる基本的な生活習慣の見直しや啓発活動につながる取組を積極的かつ計画的に行いたいと思っています。

◆おわりに

幡多地区で、一番小さな規模の小学校になってしまいました。でも、本校の強みは、「目が行き届くこと」「一人ひとりに最後まで寄り添えること」です。教職員は、常に児童に寄り添い、児童のどんな小さなつぶやきにも耳を傾けながら、互いが思いやり、人と人とながりを、友だち同士とながりを、さらには、地域とのつながりを大切に思う心の育成に日々努めています。

命を尊び、明るい未来を、故郷を愛する心を、故郷を誇りに思う心を大切に、故郷の明るい未来を創造する児童の育成に向けて、今後、取組を進めていきます。



※1「スクールカウンセラー」の略

※2「スクールソーシャルワーカー」の略

※3「スクールヘルスリーダー」の略

大方中学校
学びあい つながり
未来を拓く
 校長 大塚 明人

◆はじめに

今年度の大方中学校は、1年生51名、2年生39名、3年生52名、合計142名で日々学びあっています。昨年度同様に、学校教育目標は「学びあい、つながり、未来を拓く」です。「学びあい」は生徒の学びはもちろんのこと、教職員が学びあっていることがより良い授業などの実践に欠かせないことも含めての意味です。また、「つながり」は、生徒同士のおつながり、生徒のまわりのつながり（家庭・地域・学校）のつながりなどであり、そういう取組をおして生徒たちみんなに「未来を拓く」力を伸ばしてほしいという思いを込めています。

021年度生徒会目標は、「挑み、関わり、共に輝け！」です。一学期当初の全校集会で共有して、生徒玄関に掲示しています。

◆チャイムが鳴らない学校

日本の学校のチャイムの歴史は、明治時代までさかのぼるそうです。当時は、手で鐘を鳴らしながら校内を歩いて回る担当の方がいたそうです。本校の設立当時、幡多郡第二高等小学校（M22）や入野高等小学校（M28）ではそういう風景が日常だったのだと思います。現在は、「キーンコーンカーンコーン」のチャイム音が鳴っている学校が多くありますが、そのような中、本校はノーチャイム制を採用しています。朝の登校、朝読書……授業、給食、昼休み……掃除……。ずっとチャイムの音がありません。チャイムの音がない中で、1日の学校生活がスムーズに行われています。そして、授業に遅れそうになっても慌て走って行く生徒の姿や、慌てて職員室を飛び出していく教員の姿もほとんどありません。本校では、とても当たり前前のこととしてノ

ーチャイムが定着しています。（定期テストの日のみチャイムが鳴ります。）

【生徒の感想】

○入学してから1カ月くらいは、ノーチャイムに慣れるのに苦労したけれど、もう大丈夫です。時間を意識して行動できるので、自分のためになっていくと思います。（中1）

○小学校の時チャイムがあったのでないことが自然だったけれど、慣れたらこれが普通になりました。この経験は、おとなになって役立つことだと思います。遅れないように常に時計を見ていたり、忘れていても友だち同士で声を掛け合っています。（中3）

チャイムで動くのではなく、みんな2、3分前行動です。これからも自律につながるこの取組を大切にしていきたいと思えます。

◆生徒が中心の活動を

6月11日（金）の生徒総会では、生徒主体での会議運営が最後まで行われました。そして、各学級からの要望と討議では、「制服のこと」



「タブレットPCへのイヤホンのこと」「給食時の音楽のこと」など、さまざまな内容が提起され、参加したみんなが自分のこととして考えて活発な意見交換がありました。今後の検討課題として持ち越したのですが、2年生から出された「女子の制服としてズボンを含めてほしい」は、ジェンダーフリーの視点からもとても大切な提起でした。今後も、生徒会やPTAでも学習会をしたりしながら、継続して考えていかなければならないことです。

また、2学期には体育祭もあり、すでに実行委員会を中心として取組が始まっています。これからも生徒主体のさまざまな取組をとおして、生徒の輝く姿と自尊心が高まることをめざしていきます。

◆2つの県教委指定事業

今年度の本校は、「中学校組織力向上のための実践研究事業」と「学校活性化・安定化実践研究事業」という県教育委員会の指定事業を2つ受けて取組を進めています。前者は、複数の担当がいる教科の授業で、学年の1組と2組を別々の教員が担当し、いつも打合せや指導方法の検討をして授業をしています。より質の高い授業を行うために、日々が研修となっています。後者は、生徒自身が自尊心や自己有用感を育み、将来への夢を持って学校生活をしていくための取組です。

このような実践研究を基盤としながら、前述のような生徒と教職員の取組を大切にしていきたいと考えています。

